

横浜市立大学学術情報センター

貴重書 月替わり展覧会リーフレット (174)

2026年3月の作品は
「神奈川県蒸気車鉄道之図」「横浜新海地高島町鉄道之真景」
—浮世絵から見る横浜の姿—

展示テーマ

～浮世絵から見る開通当初の鉄道～

明治時代の横浜の姿を描いた浮世絵は多数存在するが、本展示では、その中でも鉄道が描かれた作品を取り上げて紹介する。

日本で初めて開通した鉄道は明治5（1872）年に新橋－横浜間を結んだ。浮世絵に描かれた鉄道は非常に細かく描写されており、車両だけでなく背景や描かれた地名、描かれている人々の表情などから多くのことを読み取ることができる。明治時代の人々にとって画期的な鉄道の開通は、日本の近代化を象徴するとても誇らしいものであったのではないだろうか。

鉄道開通に際して、鉄道路線図や鉄道完成予想図、鉄道の賃金や乗車にあたっての注意事項が記載された書物などが描かれた。そのような書物を調査して当時の鉄道の姿や、人々の反応、現在と違う点などについてみたい。



「神奈川県蒸気車鉄道之図」(3枚)

明治時代、明治3
(1870)年12月

作者：一曜斎国輝
(1830～1874)

縦37cm×横74cm

京浜間鉄道を描いており、鉄道建設工事の開始というニュースを主題として出版されたものである。鉄道建設工事は明治3（1870）年3月に始まり、明治5（1872）年秋に開業した。一方、この浮世絵が描かれたのは明治3（1870）年12月であり、まだ工事が行われている時期だった。つまり、この絵は鉄道建設工事の開始に伴い、人々に将来の完成形を伝えるために描かれた想像図だと考えられる。背景には台町（現在の神奈川駅周辺）から野毛・吉田町が描写され、海上に築造された横浜駅（現在の桜木町駅）～神奈川駅間の線路を東京方面へ進む鉄道が描かれている。



「横浜新海地高島町鉄道之真景」(3枚)

明治時代、明治8
(1875)年

作者：豊重二代
(生没年不詳)

縦36cm×横70cm

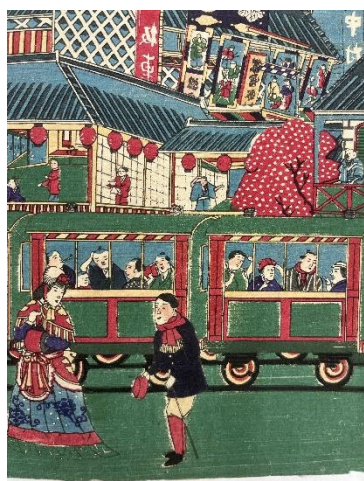
鉄道用地として造成された高島町を描いた浮世絵で、芝居小屋の岩伊座が描かれている。鉄道の開通に伴い、鉄道用地である高島町にはさまざまな芝居小屋や遊郭等、人々をもてなすような施設がつけられた。

展示のみどころ



この図版は「神奈川県蒸気車鉄道之図」の一部を拡大したものである。現在の地名でもある平沼橋や戸部、野毛町、吉田町等が描かれており、明治時代と現在の様子を比較

することができる。丘や山、崖などの描写から現在と同様、坂の多い町であることが確認できる。また、富士山は実際に見えるサイズより大きく描かれており、風景画としての一面もあると考えられる。また、想像図として描かれた海上に線路が設置され、その上を鉄道が走っている姿が実現され、横浜駅から神奈川駅の手前ほどまで海上の埋め立て地のような場所を鉄道が走っていたとされる。



次にこの図版は「横浜新海地高島町鉄道之真景」の一部を拡大したものである。この絵には数多くの人々が描かれている。鉄道に乗っている人々の表情をよく見ると、みな少し微笑んでいることや穏やかな表情であることが読み取れる。これは鉄道が開通したことに対する人々の喜びや期待を示しているのではないかと考えた。当時の人々にとっては画期的な乗り物なため、期待に胸を膨らませながら乗車していたことが想像できる。当時の鉄道では新橋－横浜

間の所要時間は53分であった。運賃は当時の値段で上等1円12銭5、

中等75銭、下等37銭5であった。諸説あるが明治3年当初の1円は現在の約10,850円程度だったため、上等で12,206円、中等で8,137円、下等で4,068円程度で下等の金額は当時の米10kgと同額であった。現在の運賃490円と比較すると圧倒的に高額であった。また当時は荷物や犬にも別で賃料が発生し、18kgまでの荷物や犬一匹につき現在の2,712円程度必要だった。

このように資料を通して現在と当時の様子を比較して、当時の人々にとって鉄道がどのような存在であったか確認することができた。現在は人々にとって気軽に乗車できて欠かせない鉄道であるが、当時は運賃も高価で庶民の人々にとっては興味があっても簡単には手が伸ばせないような存在だったのかもしれない。この浮世絵は今の鉄道の在り方を考えるきっかけとなる史料ではないだろうか。

参考文献

- ・山田書店、豊重二代「横浜新海地高島町鉄道之真景」
https://www.yamada-shoten.com/onlinestore/detail.php?item_id=47365
(最終閲覧日 令和7年11月30日)
- ・国立公文書館.(2023). 新橋横浜間鉄道之図. 国立公文書館デジタルアーカイブ
<https://www.digital.archives.go.jp/gallery/0000000745>
(最終閲覧日 令和7年11月30日)
- ・国立公文書館.(2023). 汽車運転時限并賃金表上達. 国立公文書館デジタルアーカイブ
<https://www.digital.archives.go.jp/item/3048323.html>
(最終閲覧日 令和7年11月30日)

あとがき ～貴重資料に触れて～

今回は特に明治時代の鉄道について取り上げたが、明治時代以降の鉄道の変遷についても興味がわき、調査していきたいと感じた。実際に貴重資料に触れると当時の様子を鮮明に思い描きやすいことを実感した。実際に史料を見ないとわからない絵の細かなタッチの差や小さな描写を読み取れることが興味深かったと感じた。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。また利用は学術研究目的に限らせていただいております。

※過去の展示はオンラインでも公開中です！

※第175回展示は令和8年4月上旬からを予定しています。



令和8年3月3日発行

令和7年度 日本文化論B受講生 編集
236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学 学術情報センター